

愛知大学 3つのポリシー (2024年度以降)

■大学院 国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション研究専攻

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

【修士課程】

国際コミュニケーション研究科 (修士課程) では、学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

(教育内容)

【言語コミュニケーション研究領域 (英語)】

1. 英語学における史的研究、コーパス言語学、認知言語学の研究方法を修得するため、「英語学研究」「英語コミュニケーション研究」を配置する。
2. 英語教育学における教授法、教育社会学、コミュニケーション論を修得するため、「英語教育学研究」「英語コミュニケーション研究」「英語圏文化研究」を配置する。
3. 英語学、英語教育学の修士論文を作成するために必要な知識や技能を習得できるように「英語学研究演習」「英語教育学研究演習」「英語コミュニケーション研究演習」を配置する。

【言語コミュニケーション研究領域 (日本語)】

1. 日本語の言語構造に関する研究及び社会における言語の役割を視点に分析する日本語研究の方法を習得するため、「日本語学研究」「日本語コミュニケーション研究」を配置する。
2. 広い視野から日本語の特性を分析する研究方法を習得するため、「日英対照言語研究」「日中対照言語研究」「言語学特殊講義 (一般言語学)」「音声学」を配置する。
3. 日本語教育分野における言語教育法、第二言語習得、学習者特性等に関する研究方法を習得するため、「日本語教育学研究」「日本語教授法」を配置する。
4. 日本語学及び日本語教育学に関する調査研究を行い、学位論文にまとめるための知識や技能を習得できるように「日本語学研究演習」「日本語教育学研究演習」を配置する。

【国際関係研究領域】

1. 政治哲学、国際政治学、国際経済学、国際社会学などを基本に、国際関係学 (グローバルスタディーズ) を軸とした世界認識、論理的思考を身につけるため「国際関係研究」を配置する。
2. ライブラリーワークだけに収束せず、広く生き生きとした現実感覚に拠りながら研究を進め、世界秩序の在り方へのより深い理解のための柔軟な姿勢を養うために「フィールドワーク」を配置する。

【多文化間比較研究領域】

1. 文化人類学やフォークロアを中心とする多元的文化理解の思考方法を身につけるため「多文化間比較研究」を配置する。
2. ライブラリーワークだけに収束せず、現実に即した文化理解や多種多様な文化を理解する柔軟な姿勢を養うために「フィールドワーク」を配置する。

(教育方法)

【言語コミュニケーション研究領域 (英語)】

1. 英語学、英語教育学に関する専門知識を修得し、主体的な研究ができるよう英語学においては通時的、共時的な分野、英語教育学においては英語教授法、第二言語習得の授業科目を系統的に配置し、演習、講義形式で実施する。

【言語コミュニケーション研究領域 (日本語)】

1. 演習と講義を織り交ぜ、他者との協同や教師との対話を通じて、日本語及び日本語教育に関する学術的問題を読み解く。
2. 日本語教育実習や研究調査により座学で得た知識を裏付け、独創性ある研究に発展させる。

【国際関係研究領域】

1. 演習形式の授業をつうじて、国際政治、経済、社会の理論と現場とに豊かな実践経験を持つ教員と文献研究、ケーススタディの学修ができるような教育をめざしている。
2. 学生が主体的学修を実践できるよう、多角的な視座を養うプレゼンテーション・スキルや情報収集・分析の実践、さらにそれらを生きた人間社会の研究へと繋げられるよう「フィールドワーク」を奨励する。

【多文化間比較研究領域】

1. 演習形式の授業をつうじて、豊かなフィールド経験を持つ教員と事例を通じた学修ができるようにする。
2. 学生が主体的学修を実践できるよう、アクティブ・ラーニングの教授方法として「フィールドワーク」を奨励する。

愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

【言語コミュニケーション研究領域（英語・日本語）・国際関係研究領域・多文化間比較研究領域】

1. 学生のフィールドワークに対しては、対象、方法、合法性などにおいて適切かどうか、慎重な審査を行ったうえで、奨学金も支給し、学修をサポートする。

（学修成果の評価）

国際コミュニケーション研究科（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、卒業研究（修士論文・博士論文）の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。